

篠田千明 2014 年新作 プレスリリース

It's my turn series

機劇～「記述」された物から出来事をおこす～



構成・作・演出:篠田千明

A プログラム 2014 年 7 月 11 日(金)～13 日(日) @清澄白河SNAC

B プログラム 2014 年 8 月 8 日(金)～10 日(日)@森下スタジオ

本公演につきまして是非とも貴媒体でお取り扱いいただきますよう、ご検討お願いいたします。
広報写真、文字データ等は下記までお申し付け下さい。

メディア関係者様からのお問合せ先 / 本リリース発送元

プリコグ Mail: info@precog-jp.net TEL:03-3423-8669 (担当:松本)

篠田千明、快脱退後の本格的なソロ活動第一弾！

東京—タイを移動しながら思考し続ける篠田の、21世紀的「演劇」のあり方

快脱を 2012 年に脱退し、タイ・バンコクでの滞在を続けている篠田千明。2015 年発表予定の演劇公演に向けたプロジェクトがいよいよ本格始動！バンコクと東京の往復を続ける篠田が、その独自の文脈なき知見から、現在に有効な「演劇」のあり方を探ります。

今回は、2014 年にタイで行った企画 [It's my turn] を経ての東京オリジナル企画 『機劇～「記述」された物から出来事をおこす～』を発表します。タイでは、伝統芸能や宗教儀式といった時を超えて受け継がれる「様式」をなぞり再構築する試みや、開かれた地縁にどうアーティストらとの語りあいを続けてきました。これらを経て、いま改めて東京という都市に有効な「演劇」とは何か？ リアルなアジアの現在と、時代を超えて脈々とつづく演劇の歴史を ” 「記述」する物 ” を結びつけたプロジェクトを立ち上げます。

篠田千明ならではのスケールによる、この新たな挑戦の瞬間にぜひお立ちください！

[2014 年タイでの活動の様子]



機劇 とは

身体と空間を媒介に出来事をつくり、人が集い、対話する機会である瞬間芸術・演劇が、時を越えて残されるための物:出来事を「記述」する身体／譜面／絵／テキストから、演劇とはなにか？ を考える試み。今回は 2 回に分けたショーイングを行う。

【A プログラム】

身体による記述…日本人俳優・中林舞が現地で伝統芸能“ラコーン・チャートリー”を習得し、実演。そこに中林自身の自己紹介や身体表現のポキャプラリーを重ね、篠田の演出で再構築を行う

譜面による記述…ルドルフ・フォン・ラバン、アンナ・ハルプリンのダンススコア(舞踊譜)から実際に動きをおこす

【B プログラム】

絵による記述…空間に配置され、存在する身体:ヌードモデルのデッサンを観客自身が行う

テキストによる記述…既存の戯曲を「定款」というフォーマットを参照しながら構成、演出した演劇を上演する

ショーイング概要

A プログラム：身体／譜面

•The Short Chatri / タイトルコール[身体]

日本人俳優・中林舞が現地で伝統芸能“ラコーン・チャートリー”を習得し、実演。そこに中林自身の自己紹介や身体表現のボキャブラリーを重ね、篠田の演出で再構築を行う

出演:中林舞

映像:いしいこうた、小道具:危口統之(悪魔のしるし)

•ダンススコアからおこしてみる[譜面]

ルドルフ・フォン・ラバン、アンナ・ハルプリンのダンススコア(舞踊譜)から実際に動きをおこす

出演:福留麻里

日時:

7月11日(金)20:00

7月12日(土)14:00 / 19:00

7月13日(日)13:00 / 18:00

※受付開始は開演の30分前、開場は15分前

会場:SNAC(清澄白河)

〒135-0022 東京都江東区三好 2-12-6-1F

東京メトロ半蔵門線、都営大江戸線「清澄白河駅」B2 出口より徒歩 2 分、A3 出口より徒歩 4 分

<http://snac.in/>

出演者プロフィール

中林舞(なかばやしまい)

俳優／振付師。2012 年まで快快メンバーとして活動。ケラリーノ・サンドロヴィッチ、河原雅彦、柿喰う客、DULL-COLORED POP、LAUSU、範宙遊泳など客演多数。アイドルグループ バンドじゃないもん！振付担当。

福留麻里(ふくとめまり)

2001年より新鋪美佳と共に身長 155cm ダンスデュオほうほう堂として活動。ひとりで踊ったり、神村恵や山下残などの作品に出演したり、詩人や音楽家や美術家と共同作業したりもしている。12月に初のソロ公演を予定。

B プログラム：絵／テキスト

・デッサン会[絵]

空間に配置され、存在する身体:ヌードモデルのデッサンを観客自身が行う

モデル:辻村優子

※お客さま自身にデッサンを行っていただきます

・演劇[テキスト]

既存の戯曲を「定款」というフォーマットを参照しながら構成、演出した演劇を上演する

出演:齋藤桂太(渋家)

日時:

8月8日(金)20:00

8月9日(土)14:00 / 19:00

8月10日(日)13:00 / 18:00

※受付開始は開演の30分前、開場は15分前

会場:森下スタジオ

〒135-0004 東京都江東区森下3-5-6

地下鉄都営新宿線、都営大江戸線「森下駅」A6出口より徒歩5分

東京メトロ半蔵門線、都営大江戸線「清澄白河駅」A2出口より徒歩10分

<http://www.saison.or.jp/studio/>

出演者プロフィール

辻村優子(つじむらゆうこ)

多摩美術大学卒業。快快などの演劇作品に出演。新国立劇場演劇研修所三期生。こまつ座、モナカ興業などの舞台作品のほか、BeeTV「のぞき穴」(監督 飯塚健)にも出演。作品のジャンルを問わず色々演じる。

齋藤桂太(さいとうけいた)

1987年東京都出身。アーティスト。「渋家」の作者。2008年から「渋家」を、2014年から「Tokyo Condition」を作品としている。様々な企画、展示、書籍、出来事、プロジェクトなどをメンバーと相互制作している。

このほか7月18日(金)森下スタジオにてトーク開催予定！詳細は追って篠田千明ウェブにて告知いたします。

クレジット

構成・作・演出:篠田千明

宣伝美術:小林剛

制作:プリコグ

主催:篠田千明、プリコグ

助成:財団法人セゾン文化財団、アーツカウンシル東京(申請中)

協力:SNAC、悪魔のしるし、渋谷家

チケット情報

各プログラム 前売 2,200 円 / 当日 2,500 円

2プログラムセット券 4,000 円(前売のみ・限定数、ステッカープレゼント付き!!)

6月7日(土) 発売、日時指定・自由席

取り扱い:プリコグ <http://precog-jp.net>



↑ステッカーデザイン

本公演および篠田千明のプロジェクトに関する最新情報は以下をご覧ください

<http://shinodachiharu.com/>

篠田と出演者のインタビューなど続々公開予定!

It's my turn@バンコク について

篠田が拠点を移したバンコクにて、同市のギャラリーやアーティストの協力のもと、新作のためのリサーチとワークショップ、ショーイングを実施するシリーズ。また 2014 年 7・8 月に東京にて活動報告を兼ねたショーイングを行う。

○これまでの活動履歴○

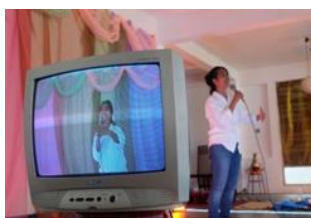
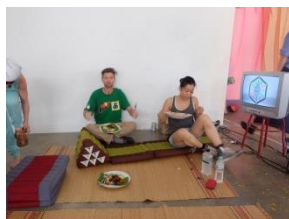
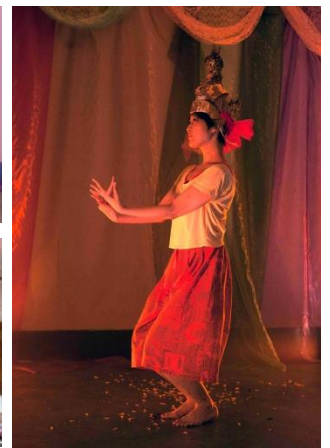
2014 年 4 月 "Replay" The short performance and artist talk @Speedy Granma



タイの無形文化遺産である伝統芸能ラコーン・チャートリーのレパートリーの一つである演目 "Kantong" の一部を、日本人俳優・中林舞が実演し、それを篠田が再構築するパフォーマンス。

中林は二週間現地滞り、伝統を受け継いでいる最後の舞踊手 Kanya Tippayosot の指導による稽古を積んだ。元来ラコーン・チャートリーは現地の結婚式や葬式などに招かれ、演じられるもの。今作では Kun Tuu という 65 歳のホームレスの男性が、それまで所持してこなかった身分証明証 (ID カード) を取得したお祝いパーティーという設定とし、取得にあたって援助をしてくれた多くの人々を招き、ともに "Kantong" を鑑賞し、祝った。また同時にアジアの演劇シーンに詳しいプロデューサーやアーティストとのトークセッションも実施。

2014 年 5 月 It's my turn @The Space Bangkok



滞在、そして 4 月のパフォーマンスを経ての、「It's my turn」シリーズ本公演。現地で信仰される神様への祈りという儀礼をモチーフに、観客自身が演劇鑑賞を通じて儀礼そのものをインストールできる場をオーガナイズした。

<この演劇を遊ぶためのとても簡単な六つのステップ>

1. 儀式は演劇をはじめる前に必ず催されなければならない
 2. 題名は呼ばれなければならない
 3. Kao Klook Kapi(えびのペーストで炒めたチャーハンにいろいろ具材をまぜて食べる、うまい)を食べる事
 4. Poh Kae(現在 150 才位の Nang Lerng に伝わる神様)の願いをきく事
※どうやるかは実際に当日やるので見ておく
 5. 大体この演劇のルールがわかったら、ちがう縮尺に変換する事
 6. ここまで来たらあなたの番のためのリハーサルが始まるので、自分の番にそなえておく
- この六つのステップは直線的ではなく六角形になっている。望めばいくらでも繰り返していける。この様式をインストールして、自分を媒介に、次の時間と空間の点に送ろう！！

篠田千明 Chiharu Shinoda



© Tada Hengsapkul

演出家、作家、イベントオーガナイザー

1982年東京生まれ。2004年に多摩美術大学映像演劇学科の同級生らと演劇カンパニー・快快（元・小指値）を結成し、2012年に脱退するまで中心メンバーとして主に演出と脚本、オーガナイズを担当。2014年現在バンコク在住。

演劇、ダンス、映像、パーティ、イベント等、既成のジャンルや上演形式に留まらない独自の活動を多彩なフィールドで展開。国際的な活動を元に雑誌、ウェブ媒体への寄稿も多数。

2010年に代表作『My name is I LOVE YOU』がスイスの国際演劇祭チューリヒ・シアター・スペクタクルにて、日本人アーティストとしては初である最優秀賞 ZKB Patronage Prize 2010 を受賞。篠田の超領域的で新鮮な演出は「新たなストーリーテリングの実験的で、高速で、軽快で、エキサイティングな形式を成立させている」と評された。舞台演出のほか、2009年「キレイな14才♡りたんず」企画／脚本・演出、2011年「We dance」ディレクターなど、プロデュースの領域でも活躍する。

2012年4月バンコクに移住、同年9月に快快を脱退。2013年2月、国際舞台芸術ミーティング（TPAM）in 横浜 大平勝弘ディレクションにて『ぼやっとする（まぬけ）』を発表。同年5月、Fabbrica Europa（イタリア）の招聘により『The PARTY party』を滞在制作。フィレンツェ、ベルリン、東京にて発表。2014年にはバンコク（5月）、東京（7月、8月）にて新作『It's my turn』を発表予定。

今後の予定

2014/06 ヨーロッパ滞在

2014/07,08 『機劇～「記述」された物から出来事をおこす～』発表@東京:SNAC、森下スタジオ

2014/秋 ヨーロッパおよび、拠点であるタイを含むアジアでの作品制作、公演を計画中

2015 悲劇を題材とした新作